



開催中

企画展「模擬原爆パンプキンー市民が明らかにした原爆投下訓練」

開催中～8月29日(土)(最終日は15:00まで)

戦争末期、全国30都市に落とされた巨大爆弾の“謎”を追って

「うわー！こんな大きな爆弾が落ちてきたんだ！」ピースあいち3階の展示室に入ると、ドーンと5トン爆弾の実物大の大きなタペストリー。手前には赤茶けたその爆弾の破片。敗戦前日の8月14日午後、春日井に落とされた4発の大型爆弾。「終戦の前日のこの空襲は?」。調査を始めた春日井の戦争を記録する会が見つけたのは、国会図書館の膨大な米軍資料の中にあった空軍「509混成群団」の存在と作戦任務一覧表と地図でした。

「原爆投下のためにつくられた特殊部隊が、広島・長崎への原爆投下と、それを成功させるために全国30都市で49発の模擬原爆を使って投下訓練をしていた」ことを証明する、初めて展示される資料でした。1991年、この報告が発表されると「模擬原爆パンプキン」の追跡調査が全国各地に広がっていきました。



予告 オンライン「夏の戦争体験を聴くシリーズ2020」

「ピースあいち」は2007年の開館時より毎年夏に、「戦争体験を聴くシリーズ」を行ってきました。昨年は8月1日から15日の間に12回行い、588人の方に聴いていただきました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの方にお集まりいただけませんので、「語り手の会」会員の語りを初の試みとしてオンラインで開催します。

ツール：ZOOM

事前申し込みが必要です(締切8月6日)。「ピースあいち」HP専用申し込みフォームからお申し込みください。参加費無料。

- 8月8日(土) 13:30-14:30
都築 基雄さん(90歳)
豊川海軍工廠への空襲・学徒動員体験
- 8月9日(日) 13:30-14:30
木下 富枝さん(84歳)
広島被爆体験
- 8月10日(月祝) 13:30-14:30
津田 さみ子さん(83歳)
中区御園町での空襲体験・疎開体験

予告 「戦争の中の子どもたち」展

10月6日(火)～11月28日(土)

今回の目玉展示は、戦時中の「めんこ」(所蔵:愛知県碧南市)です。「めんこ」の語源は小さい面。転じて「面子」と言うようになったと言われています。厚紙製で、これを地面にたたきつけて裏返しにしたり、何枚も積んで、その山からお目当てのカードをはじき出したり、と遊び方はいろいろでした。厚紙の表側にはきれいな彩色が施されており、映画俳優や大相撲力士、野球選手等が人気でした。ただし、戦時色が濃くなったころのものは、軍人や武器の図柄が多く、時代を敏感に取り入れていました。

今ではコンピューターゲームにお株を奪われ、ほとんど見ることもなくなりましたが「ピースあいち」におじいさんと一緒に来ていただければ、詳しく説明してくれると思います。蛇足ですが、名古屋では「めんこ」ではなく「しょうや」とよばれていました。



開催中

15歳の語り継ぐ戦争

—金城学院中学生の平和新聞

7月21日(火)～8月29日(土)

金城学院中学3年生の修学旅行は広島を訪ねる平和学習です。その旅で見た、聞いた、感じた事をクラスでまとめた新聞に金城生のイラストが添えられています。15歳の平和へのまなざしをプチギャラリーでご覧下さい。





野間 美喜子さんを偲ぶ

2020年3月1日、「ピースあいち」の創設者である野間美喜子さんが急逝された。前年から原因不明の体調不良に悩まされていたが、「5月のNPO理事会には行けるように頑張ってるからね」と、話してくれた矢先だった。私たちに知らされたのは、その2日後。本人の希望どおり、身内の方だけで静かにお見送りされた後だった。

聞けば、自分で買った今年の手帳の使い勝手が悪いと、家人に別のものを買いに行ってもらっている間の急性心不全だった。それでも、近親者が集まるまで持ちこたえたのだ。野間先生は最期まで、前向きに、懸命に、愛情深く生きられた。

「ピースあいち」10周年の記念式でサプライズの花束を渡して感謝の気持ちを伝えたら、「私が居なくなってからたくさん褒めて」と、笑いながら言った。そうした先生の姿、そして言葉を、いつも身近に感じている。

(事務局長 赤澤 ゆかり)

【野間美喜子さん 略歴】

1939年東京生まれ。1962年名古屋大学法学部卒業。1964年弁護士登録(16期)。

民事事件を中心に活動し、四日市公害訴訟、新幹線公害訴訟、予防接種ワクチン禍訴訟などにも携わる。1989年名古屋弁護士会副会長。戦争体験と平和憲法への思いから、名古屋弁護士会に「名古屋憲法問題研究会」を立ち上げ

る。また先の戦争について次世代に伝えていく場所が必要との思いで、1993年「戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会」を結成(事務局長)。2007年「戦争と平和の資料館ピースあいち」を開設(館長)。2019年よりNPO平和のための戦争メモリアルセンター理事長。著書に『まけるな日本国憲法』『哀愛』。

野間さん、安らかに

森 寫 昭 夫

(NPO平和のための戦争メモリアルセンター特別顧問)

野間さんが名古屋大学(名大)法学部4年生に在学していた1961年に、私は東大助手から名大助教授として名大に赴任してきたので、野間さんのクラスは担当していない。野間さんと初めてお話したのは、名古屋新幹線訴訟弁護団の会議であった。野間さんは、弁護団では若手の紅一点、会議では、声高で早口な男性弁護士の中に入って、いつも、ゆっくりとした口調で発言していた。のどかな雰囲気にも関わらず、野間さんの発言は的を衝いており、説得力があった。

私は、アメリカ留学から帰国して、研究者として四日市公害訴訟弁護団に参加したことから新幹線訴訟弁護団会議にも参加させてもらっていたが、私は野間さんの議論に注目し、野間さんも私の議論の仕方に賛同して私に信頼を寄せてくれるようになった。後に「ピースあいち」設立に向けて相談されるようになったのはこの時のご縁である。

音楽に譬えて、野間さんの話の説得性について述べてみたい。野間さんの話し方は、アルト(女性の低音)の声域でラルゴ(ゆったりと情緒を込めて)のペースである。私は、野間さんの話が説得性を持っているのは、話し方そのものが野間さんの人柄(人間性)の表出(滲み出)だからだと思う。野間さんは、内面の思考はアレグロ(急速に)に整理して、事態をバランスよく判断していたと想像するが、外面はゆったりとした態度(ラルゴ)で自分の考えを相手に押し付けようとしなかった。

野間さんと話していると、例えば、スメタナの「モルダウ」やヴィヴァルディの「四季」を聴いているように、何かしら安らぎを感じた。野間さんに多くのフォロワーがいるのは、野間さんという人間存在のオーラに魅かれていたからだと思う。

新幹線訴訟以来半世紀近く経つ。その間、私には名大定年退職など様々あったが、野間さんのお手伝いをして、とにかく「ピースあいち」を設立することができた。多くの方々の献身的な支援を得ながら、野間さんが心身を削って設立した「ピースあいち」は、野間さんの人間性の放つオーラに包まれて生まれ育まれて来た。

「先生、相談に乗ってくださいよ」と、今もアルトの声でラルゴの電話が野間さんから掛ってくるように思う。野間さん、安らかに休みください。

巨星^{きょせい}墜^おつ 野間美喜子先生

鈴木 秀 幸

(NPO平和のための戦争メモリアルセンター理事長)

魅力的な人だった。前向きで明るい人、感性も能力も素晴らしく、素直に成長を重ね、常に傾聴すべき考えを述べられ、時代に必要なことをいち早く自ら担い、人間の絆を広げられる人であった。心も容姿も美しかった。

神様が、どのようにしてこのような稀有な人をお造りになったのかと、つくづく思った。

野間家は津の藤堂家の家老で、祖父は明治時代に今の一橋大学を出て戦前東京で貿易商を始め、早稲田出身の父親が継いだ。齋藤家の母親は亀山の軍医の娘で東京に嫁いだ。戦争で母と子は亀山に疎開し、父親は東京と亀山を行き来した。戦時中、墜落し怪我をした米軍飛行士を地元の人達が殴っていたことを目にし、その理不尽さが強烈な思い出として残った。1946年、焼け野原の四谷に父親が自宅を再建したが、同年、肺炎にかかり、戦争でペニシリンが無く、無念の病死をされた。

疎開、空襲、父親の死が最大の原体験であり、先生は、気丈な母親に姉と育てられた。

1946年に亀山の津師範附属小に入学し、教師が憲法前文を読むのを感動して聞いた。これが忘れられず、そ

れが生き方の原点となった(『哀愛』の終章に記載)。中学卒業後、名古屋の親戚に身を寄せ、名大の附属高に入学。1958年に名古屋大学に入学され、新入生代表で挨拶をされたと言うから、1番で入学されたのであろう。ジャーナリスト希望であったが、女子大生は就職難で、急遽司法試験を目指し、現役で合格したという才女であった。

1964年に弁護士登録をし、娘(下方映子医師)と息子(野間啓弁護士)を育てながら、四日市公害、新幹線公害、予防接種禍訴訟に携わった。人権擁護委員会と司法問題対策委員会で活躍された。私は新幹線訴訟で修習生時代に知り合い、国際法律家協会のヨーロッパなどの海外旅行、テニス、スキー、登山、音楽と絵画など、楽しく得難い時を過ごした。

危機に敏感で、ジャンヌ・ダルクのようであった。1980年、金大中氏の軍事裁判に日本政府が抗議するよう要請書を作成し、弁護士会214名の署名をもって宮沢官房長官に渡し、国民法廷も開催した。中曽根改憲に対し、1981年に名古屋憲法問題研究会を会員183名で設立した。顧問の森英樹、大川陸夫、森正などの大学教授と研究会や読書会を1、2ヶ月に1回のペースで行い、『平和と憲法を考える』『負けるな日本国憲法』を出版した。

核兵器禁止の国連軍縮特別総会(1978～1988年)に向けて国民署名運動の愛知の運営委員会を担った。「原爆の図」展を開催し、2万人強の入場者を得た。これら全て、野間先生が中心となり、私も全てに関わった。

1987年に日弁連法曹養成問題委員、1989年に無派閥から副会長に就かれ、1990年から日弁連の中坊公平会長の司法改革路線と激闘を繰り返すことになる。1994年12月の法曹人口の第1回日弁連臨時総会において、臨時総会招集請求者側の議案提案者として名演説を行い、執行部提案を凌駕し、日弁連会長選挙に出ることを要請された。立候補しておれば、日弁連の歴史が変わっていたかもしれない。この日弁連臨時総会の戦いは、2000年11月の第4回まで続いた。この時代の反司法改革の数多くの文書は、私が起案し、野間先生が上手に仕上げてくれたものである。

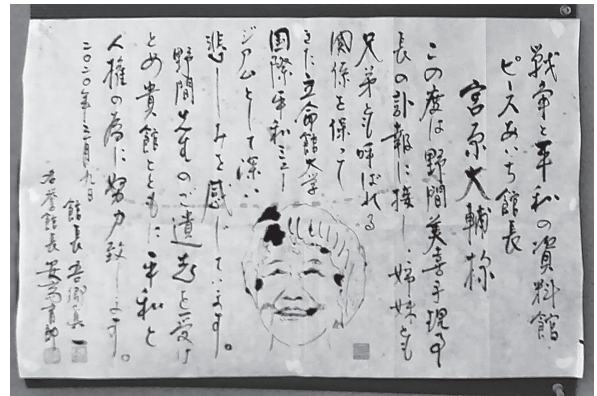
1993年に愛知県と名古屋市に太平洋戦争を次世代に伝えるため、「戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会」を結成し、事務局長として、代表世話人飯島宗一元名大学長、森嶋昭夫名大教授をはじめ学界、財界、弁護士、市民から広く協力を集め、気運を高めた。

加藤たづさんから土地と建設費1億円の寄付を受け、2007年に民間の資料館「ピースあいち」を開館させ館長となり、2019年に理事長に就任し、私は副理事長を仰せつかった。

この「ピースあいち」は、役員、事務局、運営委員、戦争体験の語り手及びガイド、研究者など百数名ものボランティアによって担われ、財政は主に正会員、賛助会員、支援団体、寄附者によって支えられている。これは、まさに野間先生の遺産であり、極めて貴重なものである。

本年3月1日に私達の巨星が墜ちた。野間先生にはチャーチルのようなリーダーシップとヘップバーンの美しさと気品、イングリッドバーグマンの情熱があった。

*「野間さんを偲ぶ会」、記念出版などを計画しています。



立命館大学国際平和ミュージアム館長の吾郷眞一さんと同館名誉館長の安斎育郎さん連名での弔文

安らかにお休みください

宮原大輔

(戦争と平和の資料館ピースあいち館長)

私が野間さんと出会ったのは、1980年代の反核運動でした。東西冷戦下で核軍拡競争が繰り広げられ、核戦争による人類の危機がピークに達していました。これに対して1982年の国連軍縮特別総会に向けて、世界の各地で何万人もの人々が集まるという反核運動が巻き起こり、日本でも同様に、名古屋の久屋公園に多勢の人々が集まって核兵器反対を訴えました。その実行委員会でも席したのが野間さんとの出会いでした。

それまでの平和運動が、大組織の動員に頼っていたのに対して、市民が一個人として参加するようになって来ました。野間さんは考えの違いがあっても排除せずに輪を大きくしようと話しをされました。

この時の活動スタイルや集まった人々の繋がりが、その後、1986年の「丸木位里・丸木俊原爆の図愛知展」の開催に引き継がれたと思います。野間さんは「原爆の図展」の事務局長を務め、その事務所は野間法律事務所でした。私はこのとき、丸木美術館との折衝や展示設営に携わりました。この展示会は愛知県美術館で9日間に亘って開催され、2万1千人もの人々が入場しました。

再び、これらの活動に参加した人々が集まることになります。戦争資料館を作る活動は1993年に始まりました。戦後50年を迎えようとするところです。10人くらいの方が野間事務所に集まって議論を始めました。野間さんの人脈と実行力によって、名古屋の著名な方々が資料館を作る呼びかけ人となり、設立に向けた活動がスタートしました。数々の経緯を経て2007年に「ピースあいち」が誕生しました。一時は先が見えない時期もありましたが、野間さんには実現できるという明るいイメージが常にあったのでしょうか。民立民営で市民のみならずボランティアさんによって支えられた平和博物館が現実のものになりました。

長年の市民による平和への取り組みが「ピースあいち」のルーツの一つになったのだと思います。野間さんはいつもそれらの活動の中心的な存在でした。設立して10年を過ぎ、いまごろ野間さんは「ここまでやったからは任せよ。何とかなるから。」といった笑顔で言われているのでしょうか。私たちに託されたことの重みを噛み締めています。安らかにお休みください。

平和へのメッセージ

戦後75年目の夏がきた。75年といえば、けっこう長い。例えば、あの戦争が終わった年に赤ちゃんだった人も、いまや曾孫から「ひいおじいちゃん」と呼ばれているかもしれない。そんな長い年月、日本は平和だった。なら、次の75年も、その次の75年も、平和な世であってほしい。戦争体験を語り継ぎ、記録に残していくのは、そんな非戦の思いを消さないためでもある。

新型コロナは、人類に「平和」の尊さを教えている

中川 武夫

(核戦争に反対する医師の会・愛知 事務局長)



新型コロナ感染者は世界で1400万人を超え、死者も60万人を超えた。その多くは経済的にも社会的にも日の当たらない人々と言われている。また、紛争地域ではその実態さえ把握できていない。

コロナ対策については、残念ながら自国中心主義をあからさまにし、また自らの対策の不備を他国の所為にする動き、コロナ対策さえ儲けの種にしようとする動きが強まっている。一方では、経済優先、儲け優先の新自由主義的経済の在り方を考え直し、今こそ世界がひとつになって、協力して対策に取り組むことの必要性が多くの人々が理解されるようになっても来ている。

自国さえよければという考えの国がぶつかり、仮に

第3次世界大戦が勃発すれば、核の悲劇は必須で、人類滅亡が予見できる。一方では自国の利益を優先することで地球温暖化が加速すれば、これもまた人類生存の危機に見舞われる。今こそ、全ての意見の違いは、武力ではなく、全ての人の人権を第一に考え、強い話し合いで解決しなければならない。

2019年の世界の軍事費は200兆円と言われる。これだけあれば、コロナ対策も着実に進められる。

戦後75年の節目の年、新型コロナが改めて人類に「平和の尊さ」を教えてくれたのだと私は受け止めている。

柔らかな心で「共感」を、強固な意志で「創設」を

越智 久美子

(至学館大学 健康スポーツ科学科 助教)



カントは言う。「平和状態は、なんら自然状態ではない。(中略)それゆえ、平和状態は、創設されなければならない」と(『永遠平和のために』岩波文庫)。

私は学生に対し、「近・現代史」の講義の中、昭和20年6月9日の熱田空襲のことを伝えている。私たちの先輩34名が、学徒勤労動員先の愛知時計船方工場で爆死したこと、そして生き残った方たちが当時見たもの、空襲の後永らく苦しい思いを抱え続けたことも。当時の手記や証言を朗読しながら、毎年、涙が止まらなくなる。いや、年を重ねる毎に戦争の生々しい恐怖や悲愴や憤りが腹の底からこみあげてくる。

私が学ぶと共に、学生らに伝え続けることが「平

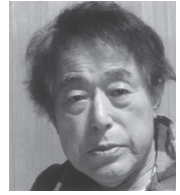
和」への一歩であると信じている。しかし、カントは「想像」や「創造」ではなく、「創設」と言っている。単に思い浮かべるだけでは甘すぎる、単に新しいものを作ればいいというだけではない。組織的に、法的に、具体的に形あるものを、ということだろう。カントの言説に近づくには、まだまだ果てしなく、気が遠くなる。そんな時、思い出すのは、長崎で被爆された吉田勝二さんの「平和の原点は、人の痛みがわかる心を持つこと」という言葉である。人の痛みを心に寄せて、痛みを分かち合いながら、一緒にがんばってみよう、という生き方を、私自身が示していくことと言い聞かせながら。

消えない傷痕

人類の歴史は、戦争の歴史である。戦争の大半は宗教と宗教の争いである。キリスト教とイスラム教の争いだ。そして資源の奪い合いである。宗教は、人を幸せにする使者ではないのだろうか？戦争には人格も哲学もない。戦争は、教養をもぎ取り良心をつぶしオオカミ人間にする。戦争の後に残るのは失われた命と虚しさだけだ。戦争を何度繰り返しても懲りないのが愚かな人類である。

父島の青々とした山の中に大きな木がある。若い兵士たちが木の下で故郷の話をしていたそうです。溶けた一升瓶が転がっていた。今は緑の山々も紅蓮の炎に包まれていたのだ。兵士の命も炎の中に消えた。撃沈された輸送船の周りを若い男女がカヤックをこいでいた。

大津 定信
(書家・作家)



沖縄の読谷村の砂浜にチイチャナ、チイチャナ足跡とお母さんの足跡があった。来る日も来る日も続いていた。四月一日、鉄の雨は親子の足跡を消し去った。喜屋武岬の平和の塔の裏に地藏さんがある。戦後75年、いつも供養の花がある。戦争は終わっていない。

沖縄の読谷村の砂浜には多くの人々の骨と血が埋まっている。広島と平和公園の土のなかから人々の悲しみの声が聞こえてくる。

もう一度、読谷村のかわいい女の子の声が聴きたい。もう一度、父島の兵士の故郷の話を聞きたい。

合掌

ごまめの歯ざしり

敗戦の日間近に私は3歳になった。両親、2人の兄そして周囲の人々の庇護のもと、大した苦勞を味わうこともなく成人した。そのせいか平和を心底願う根っこのようなものがない。幸せなことに違いないが、こうした貴重な紙面にメッセージとなると引け目を感じるばかりである。

そんな私でもなぜか沖縄のことがずっと気になっている。かつて新聞社の入社試験で作文のテーマに「日本」を選び、沖縄への思いを書いた記憶がある。それからまもなく沖縄は本土復帰を果たしたが、沖縄に平和は一向に訪れていない。米軍基地は減少せず、辺野古移転反対の民意も一向に反映されな

本田 美保子
(元「あじくりげ」編集発行人)



い。あの美ら海が無残にも埋め立てられていく。

黒川弘務東京高検検事長にかかわる定年延長問題は著名人らがツイッターで非難したこともあって、最終的には国も翻意することになった。沖縄に関しても、同じように国を翻意させることはできないのだろうか。

沖縄県民の“民意”に、本土から大勢で応援メッセージを発信する！ああ、残念ながら今の自分にその勇気がない。ただただ“ごまめの歯ざしり”で、劣化した歯をいためる一方の日々を過ごしている。

名古屋大空襲

灯火管制の真っ暗な道を近所のおばさんに連れられて当時国民学校五年生の僕は、集団疎開地の一身田(津市)から名古屋の我が家に帰った。その三日後、三月十八日深夜から未明にかけての名古屋大空襲に遭った。B29約310機が、当時名古屋の繁華街の栄町から広小路通り^{ひろこうど}、木造家屋が殆どの下町へ、油脂焼夷弾を雨霰と降らせた。家の縁の下に掘られた防空壕を這い出して、見上げた空一杯にB29が三機ギラッギラッと光っていた。

「女、子供は避難^{べっこうや}」。鼈甲屋を仕事としていた祖父が叫びました。祖母、母、僕、妹、弟は本重町から島田町へ、袋町、伝馬町、桜通りの方へ向かった。豆腐屋さんの前にさしかかった時、目の前に焼夷弾が電線にひっかかって落ちて来た。油が飛び散った、と見る間に直ぐ火がついて焰が立ち昇った。北へはもう進めないと南の広小路に向かう。歩道に作ってあつ

水谷 昌夫
(無職)



た防空壕へ入ったら四角い大きな電蓄がブスブスと燃え出したので上を乗り越えて外へ、電車通りは火の川、東から西へゴーと流れていた。

その時、「こっちへ来い」。天からの声か、銀行の通用門から地下室に入れて貰った。母はお尻と両手両足にひどい火傷、僕と弟も手足に火傷を負った。机の上に体の半分が真黒焦げの丸太みたいになった隣町のおじいさんが横になって、側でおばあさんがか細い声で「おじいさんしっかりして」。かすかにうなづいてた。憐れでした。観光ホテルに救護所ができたと聞いて、着物の下半分が焼け焦げた母は大きな白い紙を腰に巻いて外へ出た。五人でトボトボと西へ向かった時、父が向こうから来た。「生きてたか?!」母はそこで気を失い倒れこんだ。

お知らせ ピースあいち「戦後75年プロジェクト」を進めています。

1. 戦争体験の募集

「ピースあいち語り手の会」以外からも、ご自身の戦争体験を広く募集し、体験談集を発行するとともに、戦争体験の語り手の輪を広げていく。

- ①募集期間 2020年12月31日まで。
- ②文字数 3000字以内。
- ③お名前、ご住所、連絡先を明記の上、メールまたは郵送でお送りください。

2. 映像アーカイブの整備

今まで記録してきた、またこれから記録していく戦争体験談の映像を編集して「映像アーカイブ」を整備し、戦争体験の語り継ぎ活動や社会教育で広く活用していく。

・映像の編集ボランティアを募集しています。

3. 戦争体験の語り継ぎ手 ボランティアの募集と研修

戦後生まれの「語り継ぎ手 ボランティア」を募集し

研修を行う。

1) 募集対象

- ①戦後生まれの方で、戦争体験を語り継ぐ意欲のある方
- ②研修会プログラム (10月18日～ 2021年4月18日まで実施予定) に参加できる方
- ③研修会終了後に「ピースあいち」の語り継ぎ手 ボランティアとして活動できる方

2) 応募方法

- ①応募用紙に必要事項を記入のうえ、自己紹介、語り継ぎ手を目指す動機などをまとめて、郵送でお申し込みください。
 - ②応募用紙はホームページからダウンロードできます。
 - ③募集人数 10名程度
 - ④応募期限 2020年9月20日 (日) 必着
- *詳しくは、「ピースあいち」HPをご覧ください。

報告 「平和公園で観られる野鳥たち」

写真展開催

6月9日 (火)～7月11日 (土)

2階プチギャラリー

平和が丘野鳥の会の協力で、「ピースあいち」近くの「平和公園で観られる野鳥たち」の写真展が開催され、里山の鳥18種、水辺の鳥9種が展示されました。



かつて絶滅危惧の恐れがあったとして、愛・地球博の会場を海上の森から青少年公園地区に変更させたオオタカの「子育て」写真やアオゲラ&アカゲラの「ツーショット」写真、沖縄など南方地域に棲息するシロハラクイナの写真に注目が集まりました。

アンケートには「オオタカが平和公園に生息していたことには感動しました。それほどまでにも自然環境が守られていたのか、驚きです。」などとの声が寄せられました。

新型コロナウイルスの対応について

4月7日、政府は新型コロナウイルスに関して緊急事態宣言を出しました。「ピースあいち」は、それに先立ち4月4日から「ボランティアと来館者の安全が確保されるまで」臨時休館することを決めました。宣言は5月31日まで延長され、「ピースあいち」はその後、6月9日から館内の消毒など感染対策を十分に示して再開しました。

その間、すでに始まっていた今年度の複数の企画展の準備を中断せざるを得ませんでした。そこで、4月4日から開催予定だった企画展「模擬原爆パンプキン」を6月9日から8月29日まで開催し、その他の企画は順延することにしました。イベント、団体対応、展示ガイドなどは10月5日まで中止します。

なお、9月1日から30日まで、3階の断熱工事、エアコン工事のため臨時休館します。

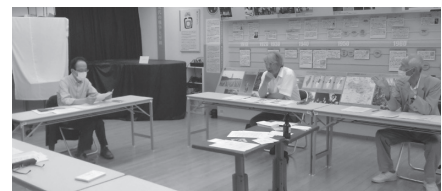
総会報告—NPO平和のための戦争メモリアルセンター

2020年度の通常総会が6月14日 (日) 13時から「ピースあいち」1階で総務部会メンバーが集まり、開かれた。

今年度の総会は、新型コロナ感染症拡大防止にため会議は開かず、理事会 (5月24日) で承認された議案書 (2019年度事業報告、2019年度決算報告、2019年度監査報告、2020年度事業計画、2020年度予算案、役員 (監事) 補充の件) と各議題の賛否を記入する返信用はがきを会員にお送りし、

書面による議決を行うことになった。

総会は、書面評決者107人、委任状提出者106人の参加で成立し、すべての議案が承認され、鈴木秀幸さんの理事長就任が報告された。最期に、返信はがきでいただいたご意見・メッセージについて、今後の対応など意見交換をして14時25分に閉会となった。



シリーズ 平和を守る仲間たち⑨ 豊橋空襲を語りつぐ会

豊橋大空襲は、1945年19日～20日にかけて2時間半にも及ぶB29焼夷弾爆撃により、死者624名、市街地の約70%が焼失しました。6月19-20日以外にも、たびたび空襲があり犠牲者が出ました。また、6月29日から発生した赤痢などの疫病で9月末までに350人以上の死者を出し(二次戦災)、合わせて1,030人以上の犠牲者が出ています。これらの戦争体験や記録を後世に語り伝えようと1989年4月18日に、市民有志の間で会が結成されました。

昨年、会結成30周年を迎え30周年記念企画「知っとう、豊橋空襲が分かる」連続学習会 全5回(講師：安間慎)を開催。毎年、「戦争と平和を未来に語りつぐ出前講座」(2012年～小中学生に呼びかけ)、「70年の記憶」(2005年～FM豊橋)、「平和講演会」などを柱に活動しています。

また、空襲の日は、米軍資料の6月20日午前0時58分説と、19日説がありましたが、2018年の市の企画展(豊橋市図書館で開催された「平和を求めてとよはし」展)での元国鉄職員の川端さんの証言をきっかけに、6

月19日午後11時43分頃が有力であることが確認されています。会ではこれまでも体験者の「20日未明…」という証言を尊重し、多くの犠牲者を出した6月20日に「豊橋空襲犠牲者を追悼し平和を誓うつどい」を毎年開催しています。

今年は新型コロナ禍という状況の中ですが、戦争体験を語りつぎ平和を守る活動を発信し続けます。空襲犠牲者名簿の調査・保存の継続、絶版となった「豊橋空襲体験記」(2000年発行)のデーター化は2022年の春を目標にすすめる予定です。

(運営委員長 長坂すき子)



2019年7月～12月「連続学習会 全5回」
コープあいち豊橋生協会館にて



2020年6月20日「豊橋空襲犠牲者を追悼し
平和を誓うつどい」湊町公園

ボランティアの窓

ボランティアに参加すること

松本 雅子

若い頃に職場の組合を経てうたごえ運動に長い期間参加してから平和への思いは、子どもを生み育て私の中で唯一揺るぎないものになりました。歳を重ね「私に出来る事はピースあいちのボランティア。これだけは続けよう」でした。

夫や子ども達だけでなく大切な守りたい命が増えました。自分の大切な人達を守るために出来る事をささやかながら行動することがボランティア活動でした。夫の健康状態と私の心の状態を見ながら続けています。係にも参加せず最低限の事しか出来ないのが心苦しいと思うこともありますが、とにかく無理せず楽しんで続けられる限り。それが私の平和活動です♡



ボランティア活動の楽しみ

水谷 洋一

10年ほど前に「ピースあいち」を訪ねてみたら、歓待してくれた。それから毎月1回のボランティア活動が始まった。この館には15年戦争時の価値ある資料が多く、ボランティアの身でありながら歴史的に貴重な戦争資料や書籍を自由に拝見・閲覧できるのは本当に恵まれている。館内を巡回すれば戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じざるをえないが、他にも思うことがある。この国では国民を大切にしない指導者達の姿勢は昔も今も変わらない。太平洋戦争では日本の軍人達は近代戦を理解せず、兵隊を消耗品扱いにして米軍の10倍もの戦死者を出した。これほど大差のついた国家間の戦争は歴史上存在しない。政治家も世界を知らず、ポツダム宣言を天皇制存続の項目がない理由で放置していたら原爆2発を落とされ、慌てて宣言を受託して敗戦。国民一億の命よりも天皇制が優先する国だと知らされる。残りの時間を知識の宝庫の場で活動できれば幸せだ。



資料館探訪 27

ソデムンヒョンムソヨクサグァン ユ・グァンスン
西大門刑務所歴史館—柳寛順を知りたくて

ソウルの北西にある広大な西大門独立公園内にある。大韓帝国時代の1908年に「京城監獄」として建てられた。日本統治時代の1923年に「西大門刑務所」に改名された。多くの独立運動家が投獄された。その中に、韓国のジャンヌダルクと言われる柳寛順がいた。1919年3月1日、彼女が梨花学堂（現梨花女子大）の3年生のとき、三・一独立運動が起きた。彼女はその運動にかかわり、1920年、ここで獄死する。切手にもなっており、独立運動の烈士として尊敬されている。詳しくは早乙女勝元の『柳寛順の青い空』（草の根出版）を読んでください。

歴史館は獄舎や死刑場、取調室などが10数

棟残され、資料や人形を使って展示されている。柳寛順が投獄されていた牢獄は地下にあり、畳1畳ほどの狭さであった。

日本人、三宅鹿之助の写真があった。彼は京城帝国大学の教授で、韓国人の運動家を匿ったため、投獄されたのであった。そんな日本人もいたことに感動した。

(N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

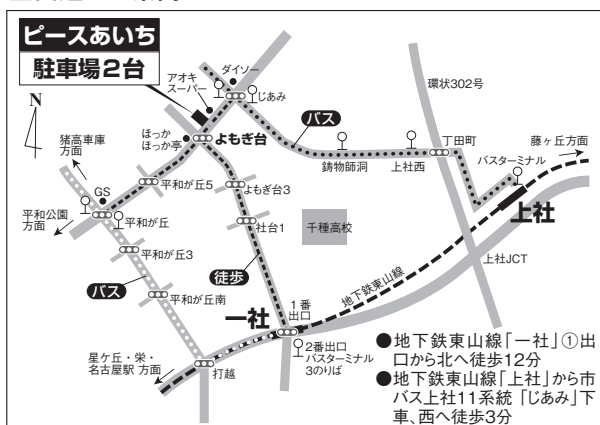
ぜひ「ピースあいち」の会員に!

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「ピースあいち」は2か月近く休館しておりましたが、6月9日から再開し、「模擬原爆パンプキン」の企画展も始まりました。

「ピースあいち」の基本財源は、入館料（大人300円・子ども100円）と会員の皆さんの年会費（正会員6000円・賛助会員3000円）です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は827名（正会員363名・賛助会員464名）ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,100万円には大きく足りません。寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

交通のご案内



【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・臨時休館（2020年9月1日～9月30日）
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

●編集後記●

野間美喜子さんの急逝に伴い、関係者三方から悼みの文をいただいた。格調高い紙面となった。当館は常設展のみではリピーターが期待できない。そこで毎年企画展を催している。丸木美術館の「原爆の図」展をはじめ、「いわさきちひろ展」「竹内浩三展」などである。また、高校生に手になる「平和新聞」というミニ展も毎年催している。マスメディアによる紹介もあって来館者は絶えない。これらの企画はすべてボランティアの方々の提案である。企画展はこれからも続く。「継続は力」なりである。

(S)